



## 京浜港湾事務所

工事名 川崎港臨港道路東扇島水江町線主橋梁部 (MP2) 橋梁下部工事

工期 平成31年4月1日 ～ 令和3年2月26日

施工会社 五洋・清水特定建設工事共同企業体

工事内容 本工事では橋梁下部工のうちの1基 (MP2) の基礎および橋脚を、鋼管矢板井筒工法により施工しました。

## PROCESS



・水江町地区に向かって伸びる臨港道路（手前からMP2、MP3）



・高さ35.1mのMP2。全体を8ロットに分け、段階的に施工しました。（左：上空から／右：井筒内から）



川崎港東扇島～水江町地区臨港道路は、京浜運河をまたぎ、川崎港の代表的な物流拠点である東扇島へのアクセスを容易にする道路です。京浜運河は多くの船舶が航行するため、少ない橋脚で橋梁を支える斜張橋の構造になっています。MP2はその主橋梁部の橋脚の1基です。

足元の基礎には、鋼管矢板井筒工法を用いています。鋼管矢板を井筒状に打設して締め切った後、支保工を架けながら井筒内を海面下約25mまで排水・掘削を行い、出来上がった空間に基礎および橋脚を構築します。井筒内全域を埋めるように厚さ7mの基礎コンクリートを設けた上に、高さ35.1mの鉄筋コンクリート製の橋脚を8ロットに分けて施工し、MP2橋脚が完成しました。橋脚コンクリートの骨となる鉄筋は、錆に強いエポキシ樹脂塗装された鉄筋を使用しています。



・橋脚1～2ロットのコンクリート打設まで設置していた支保工。



・支保工計画を見直し、橋脚2ロット構築後、井筒内に大きな空間を確保。



・橋脚コンクリートの骨となる、エポキシ樹脂塗装鉄筋。（青い部分）

## 現場より



五洋・清水JV  
監理技術者 大野洋輝さん

本工事は平成26年度工事からの継続工事であり、前回工事と合わせて6年間にわたる大工事でした。MP2橋脚は日本最大級の掘削深度をほこる鋼管矢板井筒であり、平成26年度工事では、最大級ならではの想定外の苦勞をすることもありました。

平成31年度工事からは、主に基礎および橋脚の本体構造物の施工を行いました。限られた空間を最大限に有効活用するための支保工計画の大幅な見直しを提案し、急ピッチで橋脚を立ち上げ、工期内に完成させることができました。

東日本最大の中央支間長となる長大斜張橋の主橋梁部の橋脚の1基に携われたことを誇りに思います。